

「レセプト文字データ変換ソフト」について

標記については、平成18年度からの運用開始を予定しておりますが、その概要等については以下のとおり考えています。

「レセプト文字データ変換ソフト」とは

レセプト電算処理システム（以下「レセ電」といいます。）は医療機関や審査支払機関におけるレセプト業務の迅速化・効率化を図るものですが、医療機関側での普及が進まない最大の原因は、導入メリットに比較し、その導入負担（初期投資）が重すぎることにありとされています。

レセプト文字データ変換ソフトは、この問題を解決するために考案されたものであり、具体的には、レセコン等メーカーによりバラバラの仕様となっているレセプト出力情報をパソコンを利用して「レセ電」仕様の電子レセプトに変換するソフトウェアです。

このソフトを利用することにより、医療機関は従来の手法に比べて大幅に少ないコストで「レセ電化」ができるようになります。

1 運用開始時期

レセプト文字データ変換ソフト（以下「文字ソフト」といいます。）の本格運用は平成18年度からを予定していますが、平成18年4月には診療報酬改定が見込まれておりますので、正式な運用開始は、この改定内容に対応してから（平成18年夏頃）を予定しています。

2 利用する条件等

医療機関が「文字ソフト」を利用するための条件は以下のとおりです。

- ① 「レセ電」による診療報酬請求を行うこと。
- ② 使用しているレセコン、医事会計システムが別表の「文字ソフト」対象機種であること。
- ③ 「文字ソフト」は原則として「レセ電化」以外の目的に使用しないこと。
- ④ 医療機関の規模等に応じ、導入時に「ヘルプデスク経費（注）」を負担していただくこと。

（注）ヘルプデスク経費とは

医療機関が「文字ソフト」を利用していくためには、今後見込まれる診療報酬改定等への対応や各種照会対応などの維持管理業務を別に行っていく必要があります。

「医療機関におけるレセ電化の費用を軽減する」という本事業の主旨から、この維持管理業務にかかる費用は、基本的には厚生労働省が負担することとしておりますが、「文字ソフト」を利用される医療機関側にも相応の経済効果があることから、利用される医療機関の規模等に応じて応分の負担をしていただくものです。

なお、金額の具体的な算定方法等は3月下旬に公表する予定です。

3 利用申請方法

利用申請の受付開始は平成18年4月頃を予定していますが、具体的な申請方法等は3月下旬に公表する予定です。

現在、受付準備を進めておりますが、予想以上に申請が集中した場合などは受付を一時的に制限させていただく場合があります。

【別表】レセプト文字データ変換ソフト対象機種一覧

会社名	製品名
富士通(株)	HOPE/X-S (V2, V3) ※1
	HOPE/X-W (V2, V3) ※1
	HOPE/SX-P (Win-NT, Win-XP) ※2
	HOPE/SX-J
三洋電機(株)	Newve
	NewveExceed
東芝住電医療情報システムズ(株)	HAPPY CS-Ⅲ
	HAPPY CS-Ⅱ
	TOSMEC-MEPI0
日本事務器(株)	MAPS-V5
	MAPS/CS シリーズ
日本電気(株)	MegaOak IBARS
	PCIBARS
日立グループ	HIHOPS-CS
(株)NTT データ	MINS-PRO

※1 富士通(株)「HOPE/X-S, X-W」のV1は対象外

※2 富士通(株)「HOPE/SX-P」のWin-3.1版は対象外

本件に関する問い合わせ先
厚生労働省保険局総務課
保険システム高度化推進室
電話：03-5253-1111(内線)3267

「文字ソフト」の導入にかかる各機種^①の標準的な基本料金の見積もり額は以下のとおり。

但し、実際に導入する際は、医療機関の規模、運用状況及び導入方法等によって費用が異なるので、具体的な見積もり額は各メーカーへの確認が必要。

(単位：万円)

会社名	製品名	50 床クラス	100 床クラス	200 床クラス	300 床クラス	500 床クラス
富士通(株)	HOPE/X-S	—	—	—	310	410
	HOPE/X-W	—	—	—	310	410
	HOPE/SX-P	150	150	230	230	—
	HOPE/SX-J	150	150	230	230	—
三洋電機(株)	Newve NewveExceed	50	100	100	100	—
東芝住電 医療情報 システムズ(株)	HAPPY CS-Ⅲ	104	128	178	208	258
	HAPPY CS-Ⅱ	110	134	187	217	267
	TOSMEC- MEPIO	46	60	—	—	—
日本事務器(株)	MAPS-V5	130	130	158	197	296
	MAPS/CSシリーズ	130	130	158	197	296
日本電気(株)	MegaOakIBARS	—	—	260	330	420
	PCIBARS	—	—	260	330	420
日立グループ	HIHOPS-CS	—	105	105	160	215
(株)NTTデータ	MINS-PRO	—	—	160	200	240

注1.この見積もり表は、各社が標準的な基本料金として見積もったものであり、費用総額または上限額を示すものではない。

注2.この見積もりに、次の費用は含まれていない。

- ① 文字ソフト用パソコン及びプリンタ、MOドライブなどの周辺機器に関する経費
- ② 文字ソフトのうち、変換ツール（パソコン側）のインストール等に関する経費
- ③ 医療機関が独自に設定している各種マスター、コード等への対応経費
- ④ 審査支払機関との確認試験にかかる医療機関側作業に関する経費
- ⑤ 他の医療関係システム（電子カルテ、オーダリングシステム等）との連携経費

注3.この表にない大規模な病院（例：1000床クラス）は標準的な見積もりが困難であり、個別対応となる。

「レセプト文字データ変換ソフト」の対象機種等について

標記については、先般、病院関係団体等を通じてお知らせしたところですが、対象メーカー（機種）の表について、一部誤解されている向きがあるようですので補足説明します。

レセプト文字データ変換ソフトの提供の趣旨には、
「一覧表のメーカー（機種）以外はレセ電化ができない」とか、
「一覧表のメーカー（機種）でのレセ電だけを認めている」
というような意味は全く含まれておりません。

レセプト文字データ変換ソフトの導入は、あくまでもレセ電化の手法の一つにすぎません。

したがって、厚生労働省が一覧表にないメーカー・ベンダーが提供しているレセ電システムを否定したり、一覧表のメーカー（機種）への乗り換えを誘導するものではありません。

※ 一覧表に掲載されている以外にも、レセ電システムを有し販売しているメーカー・ベンダー（機種）はたくさんありますし、レセ電化の手法も様々です。

医療機関の皆様には、複数の業者から話を聞いたり見積もりを取るなどして、自らの運用実態等に最もふさわしい選択をしていただくことが大切と考えています。

本件に関する問い合わせ先
厚生労働省保険局総務課
保険システム高度化推進室
電話：03-5253-1111(内線)3267